

## 概 要

An investigation of training methods  
for the improvement of English pronunciation

9E13003

山田 朋香

本研究では日本における英語学習の向上を目的とし、日本人大学生の英語学習者を対象に、どのような練習方法が英語の発音能力向上に役立つのかを検討した。この論文における研究課題は以下の3つである。①日本人が苦手とする英語の発音は、アクセントと子音のトレーニングにより向上するのか。②アクセントと子音のトレーニングは、①で練習を行っていない単語にも効果が表れるのか。③speaking能力を向上させるアクセントと子音のトレーニングは、listening能力の向上に繋がるのか。

本研究では、14名の日本人英語学習者を、トレーニングを行う treatment group 7名、トレーニングを行わない control group 7名にわけ、ATRという英語の発音を点数化する機械を使用し、発音の変化を調べた。さらに treatment group 7名に対しては質問紙調査とインタビューも同時に行った。

分析の結果、以下のことが発見された。①において、アクセントと子音のトレーニングを行う前と行った後の発音の変化に有意差は示されなかった。②において、アクセントと子音のトレーニングは、練習を行っていない単語にも効果が表れた。③アクセントと子音のトレーニングは、listening能力の変化において有意差は示されなかった。①と②に関して有意差は見られなかったが、インタビュー調査を行ったところ、今回行ったアクセントと子音のトレーニングは、英語の発音能力向上に効果があると感じる生徒が多くを占めた。よって、これらのトレーニング方法は、ある程度英語の発音能力向上に効果があると思われる。練習方法の中でも、特に子音のトレーニング

で使用した早口言葉が、英語の発音能力向上に効果がある方法だと思われる。また、speaking 能力と listening 能力は関係性があり、speaking 能力の向上が listening の向上に役立つのではないかと考えられる。

以上の結果から、アクセントと子音のトレーニングで使用した練習方法はある程度英語の発音能力向上に効果があるのではないかという結論に至った。さらに、これらのトレーニングは英語の発音を向上させようとするモチベーションに繋がるという生徒が多いことから、トレーニングに対する彼らのやる気が、英語の発音能力向上に影響を与える可能性が高いのではないかと考えられる。